

# Via Latina 22



2018年3月 269号

総本部よりのお知らせ - マリア会



- 2018年復活祭の機会に、Via Latina 22から  
読者の皆様に復活された主が世界の全ての人々に  
平和をもたらされるよう祈念しながら  
心からお祝いの挨拶を致します -

## 2名の卒業生、ティビリーヌの修道士が列福されます

1月に教皇フランシスコはアルジェリアの19名の殉教者を福者に認定しました。彼らは1994年、1995年、そして1996年に死去しました。この19名のグループは1名の司教（オランの）、6名の修道女、そして4名のブラザーを含む12名の男子修道者を含んでいます。彼らは7つの異なる修道会に属しています。彼らの中には“神々と男たち”（原題: *Des hommes et des dieux*）の映画で有名になったティビリーヌの7名のトラピスト修道者がいます。注目すべきは、そのトラピスト修道者の2名が私たちの学校の卒業生なのです。



修道院長 Christian de Chergé 師、（パリのCollege Sainte-Marie de Monceauの生徒）



1937年に生まれた彼は、1947年から1954年までパリの私たちの学校に通っていました。この学校は後にアントニーに移されました。彼は優秀な生徒で数々の賞や表彰を受けていました。彼はフランスでトラピスト修道者になり、その後、アルジェリアのティビリーヌに派遣され、そこで修道院長に選ばれて、死ぬまでその任務に在りました。激しい気性の持ち主で、大変聡明であった彼は、その生活と著書の中で、私たちの間にそして私たち兄弟の中に現存される神への飽くことのない探求を見せていました。1983年に彼は次のように書いています：

“キリスト教徒とイスラム教徒、私たちは直ちに相互の許し合いに取りかかる必要があります・・・同じ渇きが私たちを同じ井戸へと導く時、私たちの歩む道は一点に近づきます・・・もし私たちが共通の召命、すなわち寛容の泉を手渡すことで拡大するという共通の召命、を認識できるとすれば、世界には砂漠がもっと少なくなるでしょう” ▶

彼らの死の数日後、1996年6月23日、アントニーの学校聖堂で、殉教した修道者たちの追悼ミサが執り行われました。Christian師の母親と兄弟が列席され、そしてこの家族は今日まで私たちとの絆を保っています。



### Bruno Lemarchand 師、ラ・ロシエルのCollege Fenelonの卒業生

彼は自ら言っています。“私は高校時代を通してラ・ロシエルのマリアニスト学校に通っていました。”51歳で修道者になる前に、彼は学校の先生、そして校長として24年間務めました。

修道者として、彼は無言の愛と謙遜さで他の人たちに感銘を与えました。彼は自分自身について書いています。“イエスと共にナザレで隠れた生活をされたマリヤとヨゼフに倣いたいとの望みに満たされ、主を観想し、仲間である兄弟たちに謙虚に奉仕する生活”。

彼はまた次のような感動的な証言を打ち明けています：「ラ・ロシエル（マリア会のブラザーたちの学校）では、乙女マリアの聖画像が聖堂全体に存在感があり、その聖画像の周りには次のように書かれていました。“原罪の汚れなき乙女マリアによって、父と子と聖霊が至るところで称えられますように”。私は今でも1日数回この祈りを唱えています。」

## † JAN KOWALSKI師が永眠！

マリアニスト準会員であるJan Kowalski師が2月14日、灰の水曜日にポーランドのチェンストホヴァにて88歳で帰天しました。親密で誠実なマリアニストの友人である彼は、ポーランドでの私たちの創設の責任を取り、寛大に協力してくれた人々の一人でした。彼の葬儀に出席したEmilio Cardenas師が次のような伝記の要旨を送ってくれました：



Kowalski師（1930-2018）はクラクフのチェンストホヴァ司教区の神学校に入りました。その時代はポーランドとポーランド教会にとって非常に困難で大きな課題を抱えていた時期でした。彼は1954年、司祭に叙階されました。数年間司牧の仕事に従事した後、彼はルブリンのカトリック大学で勉学を続け、1967年に倫理神学の博士過程を終了しました。それに続く4年間（1968-1971）、彼はフリブールで勉学し、私たちのRegina Mundi神学校で生活しました。そこで彼は世界各地から来ている多くのマリアニストと出会いました。彼らはKowalski師に対して好意と敬服を持って接していたことを記憶しています。彼はそこでフランス語とドイツ語を完璧に身につけ、これらの言語は彼が公会議後の倫理神学の傾向の研究を深めるのに役立ちました。

ポーランドに帰り、彼は非常に健全な大学の倫理神学教授になりました。クラクフで、彼はKarol Wojtyla枢機卿から倫理神学の教授職を受け継ぎました。彼は数多く専門書と記事を書きました。彼は信徒と親密でした：ポーランドカトリック教師協会の相談役でしたし、また25年間、クラクフの信徒マリアニスト共同体のモデラートルでした。彼は何よりも先ず、多くの若い司祭と少なくない信徒にとっての先生であり霊父でした。彼は自分の勉強と自分の召命に忠実であることに深く留意しました。彼は多くの生徒を海外に送りましたが、その中の何名かはマリアニストと共に生活しました。彼は常にマリアニスト、特にスイス、オーストリア、フランスの会員たちと親密な絆で結ばれていました。彼はローマの総本部との関係で準会員になりました。彼はマリアニストの召命を助成しました。彼はポーランド、チェンストホヴァでの私たちの創設における大きな助け手でした。彼は常に私たちへの深い敬意を持っていました。▶

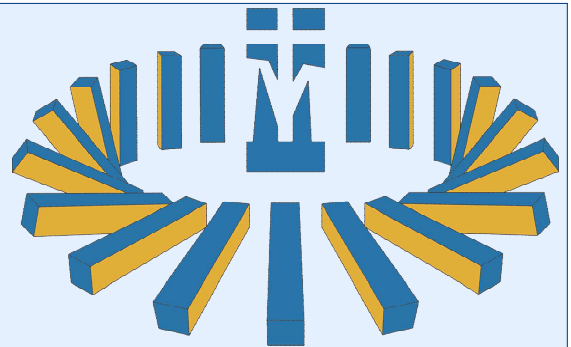
感嘆すべき忠実さを持って、彼は毎年自筆のクリスマスと復活祭の祝辞、挨拶を送ってきました。彼はチェンストホヴァの高齢者司祭用施設に引退し、そこで彼は司祭になった昔の教え子の祈りと介護を受けながら帰天しました。

チェンストホヴァでの彼の葬儀は、愛と尊敬と感謝で溢れていました。2日後、彼の生まれた小教区、ゴウツァで彼の埋葬が行われました。埋葬の間Waclaw Depo大司教はKowalski師になされたマリアニストの援助ともてなしについて、特に彼のフリブールでの勉強期間中になされた事について特別な感謝を示されました。彼が安らかに眠らんことを！

皆さんはマリア会第35回総会に関して全ての情報を入手出来ます。

公式文書、報告書、そして連絡が含まれており、3か国語で提供されます。（英、仏、スペイン語）

[www.marianist.org](http://www.marianist.org)

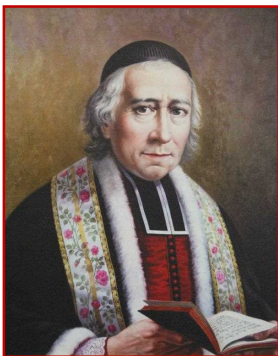


第35回 マリア会総会

2018年7月8日～29日

マリア会総本部

ローマ Via Latina 22



## 祈りの意向

17才の若者アリエル（Ariel）の病氣治癒のために、福者シャミナードへのノベナの祈りをお願いします。彼はマドリードのColegio Marianista Hermanos Amorósの卒業生です。アリエルは脳腫瘍で苦しんでおり、既に7回も手術を受けていますが腫瘍が再発しています。彼は片方の視力を失い深刻な頭痛に苦しんでいます。この意向はスペイン管区、Daniel Pajuelo師によって提案されています。

## メールアドレスの変更

- Bro. Thomas Spring (US):  
[kamakiboing@gmail.com](mailto:kamakiboing@gmail.com)

## 総本部通信

- 訃報：Nos. 5-7

